

インターバンクの声（2015 年 5 月 1 日）

黒田日銀総裁の記者会見が始まる前、大量のドル買いオーダーが並び始めるとされている 118 円 50 銭を一瞬付けに行くようなドル売りの動きも見られたが、結果としてそこが昨日のドルの対円最安値となった。その後、ニューヨーク市場入りまで 118 円台後半での静かな値動きが続いたが、米新規失業保険申請件数が予想を大幅に下回る強い結果を見せ、第 1・四半期の米雇用コスト指数も予想を上回ったことで、悲観的な予想も出始めていた来週末の雇用統計の好結果に対する期待がにわかに高まり、ドルが急速に買われ始めた。短期的には、これら雇用関連の指標が横這い或いは軟化する予想を立てて改めて 118 円 50 銭が割れるのを待っていたドル・ショートで構えていた人たちのストップを巻き込んだようにも見えた。さすがに 120 円台の回復までには至らなかったが、前日の米 GDP や連邦公開市場委員会声明、そして日銀会合を全て消化した後の相場の雰囲気を考えれば、120 円まであと僅かの水準までドルが戻るのを予想出来た人はごく少数だったはずだ。ユーロドルだけは、最近の 1.05～1.10 ドルの範囲をしっかりと抜け出して来たようにも見えるが、例年一番難しい相場展開になることが多いとされる 5 月相場は今日がまだ初日。想像も出来ない値動きになるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。